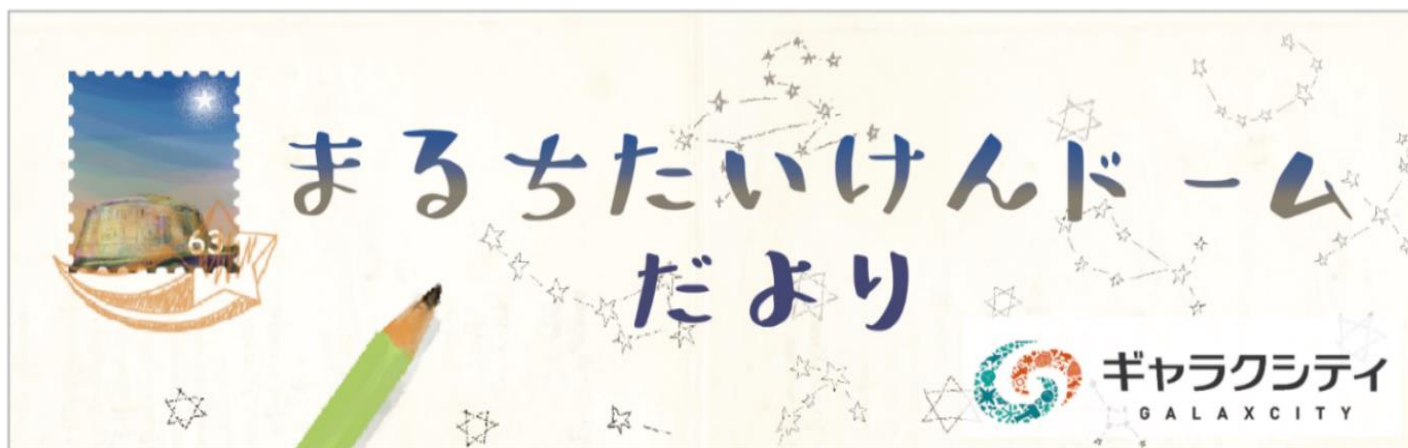




水星が見える

太陽系^{たいようけい}の惑星^{わくせい}のうち、肉眼^{にくがん}で見られる惑星には、水星、金星、火星、木星それに土星がありますが、水星は天文学者でも見たことがない人がいるといわれるほど、見るのが難^{むずか}しい惑星です。

地球よりも内側^{うちがわ}を公転している惑星には、水星と金星があり、内惑星^{ないわくせい}とよばれています。水星は太陽系で最も^{もっと}太陽に近い惑星です。金星の軌道^{きどう}は水星よりも外側^{そとがわ}にあるため割と見やすく、宵^{よい}の明星^{みょうじょう}、明けの明星^{あけのめいせい}と呼ばれて親しまれています。



2018年に撮影された夕空の水星と金星の写真

水星の軌道は金星よりかなり、太陽に近い^{ちか}いため地球から見ると太陽のすぐそばに見えます。昼間に水星を見ることは難しいので、実際^{じっさい}には日没^{にちぼつ}直後または直前のわずかな時間帯^{じかんたい}だけが水星を見るチャンスということになります。

地球から見て太陽から最も^{はな}離れて見えることを最大離角^{さいだいいりかく}といいます。夕方の西空に見られて東の方向に最も離れるのを東方最大離角、明け方の東の空に見られて西に最も離れるのを西方最大離角といいます。5月17日、水星は東方最大離角をむかえ、その前後1週間程度^{ていど}が最も見やすくなります。

実際の空では、午後7時頃^{ころ}に西北西の空、高さ10度から15度くらいのところに輝^{かがや}く姿をみつけることができるでしょう。このころは、さらに低空^{ていくう}に金星の姿も見られます。太陽系にある二つの内惑星を同時に見られるチャンスでもあり、めったに見られない水星をご自身の目でみつけることができるビッグチャンスともいえますね。

水星を見たら友人などに自慢^{じまん}できますが、写真^とに撮るともっと説得力^{せつとくりよく}が増します。

最近^{さいきん}のデジタルカメラでは、三脚^{さんきゃく}を使い水星に向けてオート撮影^{さつえい}でシャッターを切るだけで写るかもしれません。チャレンジしてみましょう。

(解説員: 田中 千秋^{かいせついん たなか ちあき})